



## 「愛に生きる勇氣」

～パウロが本当に語りたかったこと～

「そこで神は、女に子を産む時の苦しみをお与えになったのです。しかし、もし女が痛み深く、信仰と愛ときよさを持って生活するなら、そのたましいは救われます。」

テモテへの第一の手紙第2章15節 [リビングバイブル]

本日の聖書箇所の後半は、聖書の中で最も受け止めることの難しい箇所、飛ばしてしまいたい内容です。しかし、聖書のことばとして残され、パウロの言葉として私たちに伝えられているのには理由があると信じ、今朝は挑戦しています。

パウロは、この2章の後半、女性について語っていますが、それは秩序ということ、男女では役割が異なるということを伝えなかった。女性には男性にないものが沢山あります。ルリ子先生も以前にお話くださいましたが、女性は「助け手」として「ヘルパー」として造られましたから、男性よりも能力があつて当たり前とおっしゃったことは納得した内容でした。男性は立場ということだけで、実際には女性が支えているということ。今では、中には女性を男性が支えるという世界もあります。しかし、唯一、子どもを産むということに関しては男性には決してできない世界です。だからこそ、その世界によって救われるといえるのかもしれませんが。

マリヤはイエス様を身ごもり、出産しました。そして、母親となりました。そして、わが子の十字架の死も目前で見守りましたし、その痛みはイエス様以上であつたかもしれません(しかし、神の子イエス様のお苦しみはただイエス様だけのものではが)。しかし、主イエス様は三日目によみがえられ、神の子救い主としてのお立場を明確に証しされました。しかし、その人類への救いのメッセージであるゴスペルは一人の女性マリヤを通してこの世に現わされました。一人の女性エバの失敗によってこの世に神との断絶、罪が入り込んできましたが、一人の女性マリヤの従順によって救いがこの世に開かれました。この事実は変わりません。

男性は怒ったり争ったりせず、神の前に真実に祈らなければならないという使命があります。それは、闘争本能というものがどうしても男性には強くあるので、そこに目を奪われて、神様から目を離してしまうことのないようにしっかりと祈るということです。女性は肉の子どもを産む力もありますが、それと同時に魂の子、人々を救いに導く特別な力があるのだと信じます。

まず、テモテにパウロが語ったのは、1章18節後半の「信仰と正しい良心を保ちながら、りっぱに戦いぬきなさい」という命令を実行することです。その闘いとは、「祈り」を土台とする「宣教」です。それは、霊的な闘いです。しかし、その闘いは愛による闘いです。愛を实践することには勇氣が必要です。それは「祈り」をもって初めて可能となるのです。そして、共に協力し合いながら、一人でも多くの方々を救いに導くことを目指して進んで行きましょう！